

有年地区 歴史文化の視点2

23. 古代の遺跡めぐり－文化財の宝庫－

【ストーリー】

遡ること約 10,000 年前からの遺跡が数多く残され「文化財の宝庫」と呼ばれる有年地区。

市内唯一の前方後円墳である放亀山 1 号墳、千種川最大の中期古墳である蟻無山 1 号墳、山一つに 150 基以上の古墳が眠る有年原・有年牟礼地区、「祇園塚型石室」と呼ばれる赤穂市周辺特有の石質構造をもつ古墳群など、かつての有年

地区の隆盛と特徴を物語る貴重な文化財を今も見ることができる。

こうした豊かな文化財を守ったのは、昭和 25 (1950) 年に創立された有年考古館初代館長の松岡秀夫氏。有年考古館には、播磨国風土記から漏れている旧赤穂郡(現在の赤穂市・相生市・上郡町)の歴史を明らかにするための鍵が隠されている。



東有年・沖田遺跡公園



有年原・田中遺跡公園



野田 2 号墳



蟻無山 1 号墳



塚山 6 号墳



赤穂市立有年考古館

